令和　８年　７月　９日

令和７年度　特別の教育課程の実施状況等について

宮城県

学　校　名	管理機関名	設置者の別
気仙沼市立唐桑小学校	気仙沼市教育委員会	公立

１．学校における特別の教育課程の編成の方針等に関する情報

学　校　名	特別の教育課程の編成の方針等の 公表 URL
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13

２．学校における自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学　校　名	自己評価結果の公表 URL	学校関係者評価結果の公表 URL
気仙沼市立唐桑小学校	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13	http://www.kesennuma.ed.jp/karakuwa-syou/?page_id=13

３．特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

（１）特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

・計画通り実施できている

・一部，計画通り実施できていない

・ほとんど計画通り実施できていない

（２）保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

・実施している

・実施していない

＜特記事項＞

特別な教育課程編成による特例校として，保護者や地域への理解浸透を深めるため，その趣旨と状況について，ＰＴＡ総会時の唐桑小学校経営の基本計画の中で校長より説明している。また，保護者や地域の方々に対して「海と生きる探究活動」による探究的な学びの成果を，児童の姿を通して「リアスサミット in 唐桑」において広く公開・発信している。また，探究的な学びの充実のために支援をいただいている地域支援員と意見交換を行う機会を定期的に設け，児童の学び方についての意見や今後の活

動の充実に向けたアドバイス，ご意見等をいただくことで，本校独自の特別な教育課程の編成による「海と生きる探究活動」の改善と充実に努めている。

４．　実施の効果及び課題

（１）特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している目標との関係

地形的に優位な湾の利点を生かしながら，長きに渡って牡蠣やホタテ等の養殖業を生活の生業としている本学区において，「海で学ぶ」「海を通して学ぶ」「海のために学ぶ」という，貴重な教育資源・教材である「海」を中軸とした特別の教育課程を編成し，「本物」のモノ・ヒト・コトに向き合いながら探究的に学んでいくことは，「主体的に生きて働く力」を育む本校の教育理念に合致したものである。海洋教育に関する特別な教育課程として編成した領域「海と生きる探究活動」を推進してきたことにより，児童は教科等での学習や地域での活動に主体的に取り組む姿が多く見られるようになり，唐桑という地域への愛着も深まってきた。教科等との横断・往還を前提として編成した「海と生きる探究活動」において，児童が自ら課題や「問い」を見いだし，自分なりの考えを深めたり，仲間と協力しながら課題の解決を図ったりする姿が増加し，日常の学びを探究的に改善しながら，「自ら学ぶ児童」の育成という学校目標の具現に成果が見られた。

また，地域の海を中心としながら自然に出会い，触れ合う多様な体験的学習・対話を重視した活動を通して，自分自身の関心や疑問を深めたり，他者の考えや立場，地域社会を尊重しようとしたりする態度が育ってきている。また，継続的で発展的な学びを大切にする単元全体を通して，困難な場面においてもあきらめずに挑戦しようとする姿勢が育成され，本校が目指す「思いやりのある児童」や「心身ともにたくましいい児童」の育成にも着実な効果が窺えている。

一方で，児童個々の実態に応じた学びに進め方については差が生じる場面もあり，課題への導き方や問いの立て方，学びのプロセスや学びの整理の仕方など，探究的な学びの深まりに対しては，個人差が見られることが課題として挙げられる。また，学びの振り返り（目的と取り組み方等）や成果を整理し確認したり，他の児童や地域の支援者と共有したりすることが十分とは言えず，「海と生きる探究活動」で得た学びの意義を確認し，他の教科学習や次の活動につなげるための手立てについて，さらなる工夫が必要である。

本校においては，特別な教育課程の編成をする以前は，総合的な学習の時間の中に，養殖体験を中心とした学びを位置付け，養殖業を営む地域支援者の協力を得ながら継続してきた経緯がある。そのことが，総合的な学習の時間と「海と生きる探究活動」との明確な棲み分けができていない要因の一つとなっている。目的と内容，方法等についてこの２つの領域の区別と関連を明確にしていく必要がある。

（２）学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

「海と生きる探究活動」を中心に，関連する教科等を横断・往還させた本教育課程の実施を通して，基礎的・基本的な知識・技能の定着に加え，自ら考え判断し，表現する

力の育成が相乗的に図られており，学校教育法等に示される「自立した人間の育成」「社会の形成者として必要な資質・能力の育成」という目標に迫る取組となっている。また，豊かな自然や地域の人々と関わり，児童が互いの違いを認め合い協力しながら活動する中で，望ましい人間関係や社会性が培われており，豊かな心を育成するという学校教育の基本的な目標にも資するものとなっている。

しかしながら，海に関わる探究的で横断的な学びが，体験的な活動や深まりが乏しい調査活動のレベル，安易な解決行動に止まってしまっていることが否めないため，自分自身の将来の生き方や実生活と関連付けながら，キャリアとして考える力については，十分に育成されているとは言いがたい。今後は一層，地域の人々の生業を支える大切な海と関連させた学びを通して，児童自身の日常生活や将来の社会との繋がりを深く意識できるよう，実生活・実社会における海への向き合い方についての指導を一層充実・強化していくことが課題の一つである。

５．課題の改善のための取組の方向性

今後は，学校教育目標である「志をもち，かしこく　やさしく　たくましく伸びる児童の育成」をより確実に達成するため，海洋教育に関する特別な教育課程を編成する意義，特別な」領域「海と生きる探究活動」を通して探究的・横断的に学んでいく意義について整理・確認しながら，以下の方向性で取組を進めていく。

- 児童一人一人の興味・関心に基づく課題意識や素朴な問いを前提としながら，個々の学びへの取り組み方やそこでの思考の過程，行き詰まりや困り感等を的確に把握し，個に寄り添い，個を生かす伴走型の支援と指導を一層充実させる。
- 児童の学び自体が「探究的」となるように，目指すゴールに常に立ち返りながら，自分の今の立ち位置と状況，学びの過程の進捗等を振り返り，見取り，一緒に確認できる場を効果的に設定し，児童が自らの成長や課題を自覚し，次の学びへとつなげられるようにする。
- 体験的・協働的な学びを通して，自分自身と対話したり，仲間と関わり合いながら思いをつなぎ合わせたりしながら学ぶ楽しさや達成感を味わわせ，学び続けようとする意欲を高める。
- 健康・安全に関する指導を継続的に行い，児童が自らの生活を主体的に整え，困難に直面しても粘り強く取り組む力を育成する。

「海と生きる探究活動」という特別な領域の中での取組に止まらず，教科等と横断・往還させて教育課程を特別に編成することの意義，地域資源である「海」を中心教材とし，本物と関わりながら自他の生き方と向き合っていくことの意義，そのための児童の「探究の質」の現状について常に共通確認しながら，学校全体で教育活動の質的向上を図り，目指す児童像の実現に向けた教育過程の改善・充実を継続していく。